

常陸大宮市域は戦国時代には佐竹氏の所領であったため、多くの城館跡がみられます。今回は山方地域の御城(山方城)について紹介します。

山方城は、市内山方地域、山方総合支所の北側にあります。

応永15年(1408)、関東管領上杉憲定の子義憲が佐竹氏を継いだとき(義人と改称)、後見として美濃山方(岐阜県山県市)から常陸に入った上杉一族の山方能登守盛利が居城としたと伝えられています。その後、佐竹氏15代義治の第5子東政義の居城となりましたが、ほどなくして東氏は小里(旧久慈郡里美村地内)に移ったといわれています。佐竹系の城館の特徴といえる、川をのぞむ舌状台地上に位置し、西側には高館山、南側には皆沢川が流れる要害の地でした。現在櫓(展望台)が復元されている台地東端が主郭(本城の建てられていた区域)で、そこから西に向かって中ノ城、外城が形成されていきました。郭の間には空濠の跡もあり、畑や宅地になった現在でも遺構がよく残っています。この御城・中ノ城・外城が日常の居館であり、西側にそびえる高館山は本城部分が残った際の詰め城でした。山中には、連郭式(濠や土塁などで区切られた区画が直線状に連なる城の



▲南側からみた一の堀。写真右手が御城。左手が中ノ城。



みじょう 御城跡 (御城展望台)

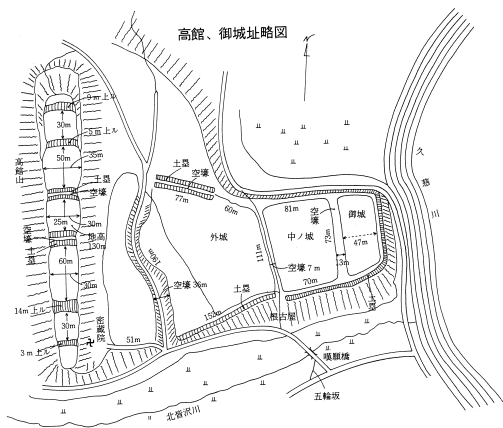
形式)の城跡が現在でも確認できます。城内にはヤジノ(ヤダケ)の群生がみられます。ヤジノはイネ科の竹で、真っ直ぐで節間が長く矢の材料として用いられました。市内の中世城郭跡にはヤジノの群生している所が多くみられます。御城でも城内全域にヤジノを植え、戦に備えていたのでしよう。

御城の南麓は現在「根古屋」という字名で呼ばれており、家臣の居住区だったことがうかがえます。根古屋地内の皆沢川にかかる橋は「嘆願橋」と呼ばれ、城内に入ることを許されなかつた庶民は、城の手前のこの橋で嘆願をしたと伝えられています。

御城は、国道118号線バイパス建設工事に伴い昭和61年に発掘調査が行われ、古銭、中世の灰釉陶器片や数点のカワラケ類および墨書石が1点出土しました。この墨書石には経文のような文字が記されており、中世の民間信仰の遺物と思われる。御城に詰めていた武士が戦における神仏の守護を祈願して書いたものではないでしょうか。

嘆願橋から南郷街道を通って御城大手口に至る道は戦国山城の雰囲気の色濃く残っています。上記の遺物や、山方氏の子孫の方から寄贈された山方氏関係史料は御城展望台内の展示室で見ることができます。

付図「高館・御城址略図」
〔山方町誌〕上巻



▲南側からみた嘆願橋。写真奥は中ノ城。奥右手が御城(主郭)。